

自ら考え ともに学ぶ修学旅行

— 総合的な学習の時間『ともに生きる』の中に位置づけて —

愛知県稲沢市立明治中学校

横 田 里 志

1 はじめに

稲沢市は、名古屋市の北西に位置し、人口約10万人の都市である。

名古屋都心から20km圏内にあり、公共交通機関で15分足らずで到着できる都市でもある。

稲沢市の歴史をさぐると、7世紀後半に国府・国分寺が置かれ尾張国の政治・文化の中心として栄え、江戸時代になると東海道と中山道を結ぶ美濃路の宿場町としてにぎわったといわれている。

産業面では、肥沃な土壌と穏和な気候を生かし、古くから野菜・植木・苗木などの産地として発展してきた。植木の産地としては、埼玉県川口市・大阪府池田市・福岡県久留米市とともに、日本の四大生産地のひとつとして数えられている。

また、旧暦の1月13日に行われる国府宮のはだか祭（正式には、難波神事という）は天下の奇祭として、全国ニュースでも放送されるほど有名である。このはだか祭は、尾張国司が悪疫退散を祈願する厄払いとして尾張大國霊神社（国府宮神社）で行ったのが発祥といわれている。

その稲沢市の中でも西の端にある明治中学校は、周りにのどかな田園地帯が広がり、校舎は木々に囲まれて自然豊かな場所にある。しかし、最近、校区にゲームセンターや映画館が一体となった大型小売店が進出し、道路の整備や住宅の建設などが行われ都市化が進みつつある。本校は、各学年4クラス、全校生徒437名の中規模校である。保護者の中にも造園業を営む家庭が多いのが特色である。



【国府宮はだか祭】



【明治中学校】

2 平成14年度 修学旅行までの取り組み

平成14年度から本格実施される「総合的な学習の時間」を考慮に入れながら、中学1年生から校外学習や行事を計画してきた。テーマを『環境と福祉』に設定し、3年間、学習を積み上げてきた。

中学1年生は、春の校外学習で『環境』、秋の行事の中で『福祉』をテーマに取り組んだ。

中学2年生では、「総合的な学習の時間」の試行前年ということで、本校でも「総合的な学習の時間」に取り組んだ。前半は『環境』、後半は『福祉・ボランティア』をテーマに校外学習や行事を組み込みながら、「総合的な学習の時間」を行った。

(1) 中学1年生の取り組み

① 春の校外学習『環境』

春の校外学習では、「身近な地域の特徴をつかもう」を課題として、リトルワールドにいった。これは、世界各地の特色ある家と明治地区に多い日本の伝統的な家を比較し、家の造りの違いを知ることをねらいとした。その家造りの違いは、地域の気候や地形に起因していることをつかませるとともに、明治地区の自然環境を自覚させることもねらったものである。

校外学習では、各クラスで6つのグループをつくり班別行動をとった。問題意識を持ち見学するように、事前にレポート提出をすることを指示し見学学習を行った。レポートは世界の家のデッサンと気がついたことを必ず記入させ、見学学習終了後、1週間経過してから提出させた。この1週間は、疑問に思ったことを調べるために設定した。その後、レポートの優秀作品を学年掲示板に掲示し、生徒たちの意識高揚につとめた。

② 福祉実践教室『福祉』

秋には、福祉実践教室を行った。この行事の前に、道徳の授業で「思いやり」に関する資料をつかい、生徒に福祉に関する意欲づけを行った。その道徳の授業実践後、福祉実践教室を行った。

福祉実践教室は、「車椅子体験」・「盲導犬体験」・「要約筆記」・「点字」・「手話」といった5講座を開き、生徒には2コースを選択させた。

生徒たちは、体の不自由な人の話を聞いたり、車椅子体験や盲導犬体験をすることによって、障害者の目線で物事が考えられる良い機会であった。



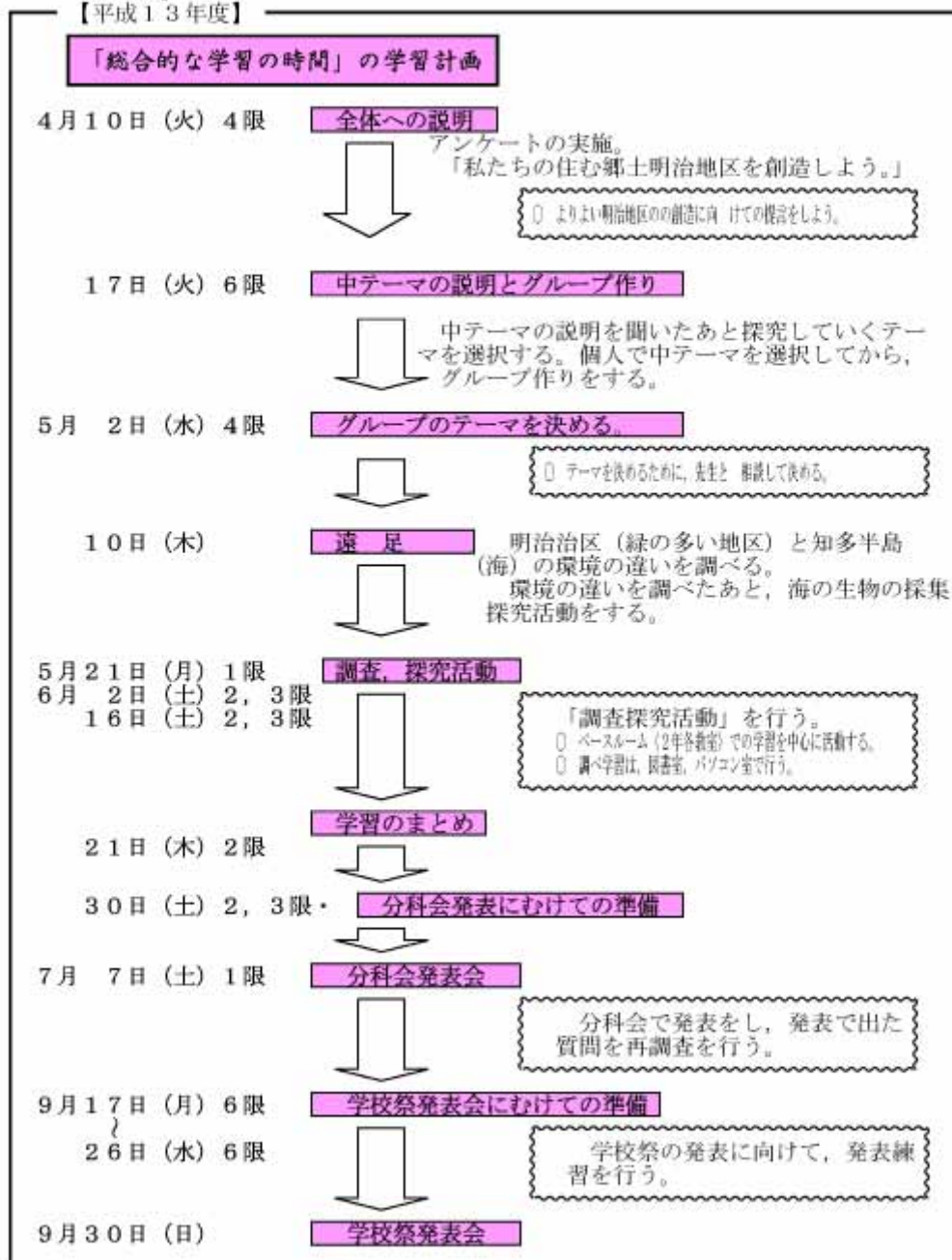
(2) 中学2年生の取り組み

① 『環境』をテーマに・・・(4月～9月)

● 学習計画

下記の計画をたて、総合的な学習の時間を実践し、“自ら考える”という態度を育成していった。

【平成13年度】



② 課題設定と追究活動

この取り組みでは、4月10日の全体への説明において、「私たちの住む郷土明治地区を創造しよう」というテーマ設定したことを知らせ、生徒に明治地区の未来はどうなっているかを考えさせた。考えたことを、作文かイメージ図にして提出させた。

その提出された作文やイメージ図から、生徒が興味を持っている内容に分け、中テーマを設定した。中テーマは、『緑と産業』・『大気と交通』・『家庭生活とごみ』・『都市化』の4テーマから、生徒にどのテーマを追究していくかを決定させた。さらに、選んだ中テーマで、グループ編制を行い、グループの話し合いのもとにグループテーマを決定させた。

グループテーマの追究の仕方としては、明治中学校の図書館で調べたり、パソコン室でインターネットを活用したりして調べた。また、近くの植木屋に行き聞き取り調査をしたり、道路の交通量を調査したりした。近くの清掃工場、自動車販売店、市役所などに生徒が電話をし、



【インターネットで調べる生徒】

訪問の約束をしてから見学にいったグループもあった。調べ学習、見学学習を通して、自ら設定した課題を解決していくように追究活動を行った。

③ 発表会

追究した結果をあきらかにするために、2回の発表会を行った。1回目は、分科会形式の中間発表会を行った。追究しているテーマが同じグループを3つ集め、2年生の教室、特別教室や空き教室を利用して、発表と質疑応答を7月に行った。この中間発表会は、生徒が初めて発表し、運営していく体験であったので、自分たちの発表をするのに精一杯であった。そのため他の班の発表を聞いて、質問することができなかつたり、質問に答えられなかつたりすることが多々あった。まだ発表会とよぶには、十分ではなかった。



【発表の準備をする生徒】

この分科会の発表後、自分たちの発表を反省し、さらに質問に答えられるように、夏休みに各グループで自主的に追究活動を行い、9月の前半は、最終発表会に向けて、掲示物・プレゼンテーション・OHPの追加作成や発表練習、質疑応答、司会進行の練習を進めた。

そして、9月の学校祭の発表では、体育館の中で全校生徒を対象に4つのグループが

チャレンジした。そして、残りの30グループは、各教室と特別教室で発表会を持った。各教室と特別教室の発表は、全校生徒が自分の聞きたいグループの発表を移動して聞く方法をとった。



【体育館舞台上での発表】



【分科会発表（体育館）】



【分科会発表（教室）】

【分科会発表の教室・体育館案内図】

② 『福祉・ボランティア』をテーマに・・・(10月～2月)

① 学習計画

校外学習と福祉訪問活動という2つの行事を体験してから、総合的な学習の時間を行った。この体験から、「疑問に思ったこと」や「やってみたいと思うこと」をテーマに掲げ、後半の活動を実施した。学習計画は、下記のようなものである。

【校外学習】

- 名古屋市内の班別学習

福祉、ボランティア関係の総合学習を考慮にいて。

【活動例】

- 公共施設でのバリアフリー、障害者、高齢者に優しい施設になっているか調査
- ボランティア活動を行っている団体(NGOなど)への聞き取り調査
- 盲導犬、介護犬の育成団体訪問
- 介護器具などの販売をしている企業訪問、
- 住宅建設企業へのバリアフリー調査
- 障害者にとっての自動車の調査
- 東海豪雨のボランティア状況の聞き取り調査

【校外学習までの計画】

- 9月12日(水) } ・・・・午前中に1カ所、午後に1カ所を決定する。
- 21日(金) }
- 10月13日(土) ・・・・活動内容を確認 (冊子に書くところは、質問内容を考える)
- 10月22日(月) ・・・・校外学習

【福祉訪問活動】

- 福祉体験・・・10月31日(水) } 2学級ずつ
- 11月 2日(金) }

訪問場所
第2大和の里
けやき館
しいのき館

11月中旬以降

※福祉体験後は、「私たちにできるボランティア活動」を考える。

- ① 募金活動
- ② 訪問活動(保育園、老人ホーム)
- ③ 地域の清掃活動
- ④ その他

4つのテーマに分ける

1/23

- どんなことができるか、どんな活動ができるかグループで考えたり、調べたりする。

2/2

- 各グループで、募金活動をする場合には、学年や学校全体に知らせるために、ポスターを作ったり、校内放送を活用しCMを流す準備をする。
- 施設を訪問する場合は、関係施設に連絡をし、訪問確認をとる。訪問活動の練習をする。

2/16

- 実際に活動を行ったり、生徒会に働きかける活動を行う。

② 校外学習

この校外学習では、「総合的な学習の時間」の体験から、問題をさぐるために名古屋市内の「福祉・ボラティア」に関する施設や企業を訪問し、いろいろと情報を収集する学習活動を行った。

各クラスでグループ編制を行い、グループの興味関心があるテーマにそって、訪問先を決めた。その訪問先は、インターネットから探し、生徒が自ら訪問先に電話をして、訪問の許可を得る活動を行った。その後、教師の方で訪問施設に訪問依頼状を送付した。電話で訪問を依頼するときは、担当教師に電話すること伝え、電話の近くには教師がいるようにした。これは、トラブルが発生したときにはすぐに対処するためである。

訪問先に許可をもらったグループから、校外学習の計画表を作成した。この学習では、学校スタートではなく、学校から自転車で20分かかる国府宮駅を最初のチェックポイントとした。そして、午前中に「福祉・ボラティア」関係の訪問をし、午後は名古屋市交通局が発行している『なごや』という観光名所、史跡などが掲載されている情報誌から1カ所を選び、国府宮駅に帰ってくる計画をたてさせた。

下にあるのが、生徒の計画した活動予定表をまとめたものである。

校外学習では、緊急の連絡を生徒や訪問先と取るために、3台の携帯電話をレンタルし、事前にレンタルした電話の番号は、生徒に連絡をしておいた。

計画にしがって、当日は行動し、12時前後に校外学習担当の教師に確認の電話を入れるようにした。4グループほど連絡忘れがあったが、最後の国府宮駅チェックで連絡をしなかった理由を確認した。全グループとも16時までには、国府宮駅に帰ってきた。後日、この校外学習の訪問レポートを作成した。



【福祉車両見学】



【介護教室実習】



【介護製品展示の見学】

この訪問レポート作成で校外学習を終えたが、生徒はこの学習でいろいろな失敗をし、いろいろなことを学んだ。その失敗例としては、「事前に計画をたてたが、その時間通りにいかず、訪問先に迷惑をかけた」、「訪問先で2つのグループが合流できずに、話を聞く時間がおそくなってしまった」、「見学途中に、グループのメンバーが別れてしまった」などがあった。しかし、場所が名古屋ということもあり、教師は訪問先にすぐに行くことができトラブルに対処できた

③ 福祉訪問活動

この活動は、学校の近くにある高齢者介護施設「第2大和の里」・稲沢市の施設の「けやき館」「しいのき館」を訪れる高齢者を訪問し、ふれあいをするものである。

クラス内で4つのグループをつくり、劇やともに遊ぶゲームを考えたり、合唱や合奏を行ったりした。

訪問活動を行う1週間ほどは短縮授業を行い、30分間を生み出した。この時間を利用して、当日の練習や準備を行ったりした。

訪問活動は、午後の5、6限目を活用し訪問した。一緒にゲームやクイズを楽しんだり、紙芝居を見せたり、ともに歌ったりして、地域の高齢者の方々と楽しく1時間ほど過ごした。生徒は、自



【風船バレーボール大会】



【歌を披露する生徒】

分たちが訪問することで、高齢者の人々が喜んでくれたことにとっても大きな自信が生まれたようであった。自分たちと違う年齢の人と接することで自分たちとどう違うのかということが実感でき、どうしていけばよいかということを考えることもできたようであった。

④ 総合的な学習の時間

校外学習と福祉訪問活動の2つの行事を経験してから、「私たちにできるボランティア活動を考えよう」をテーマに後半の総合的な学習の時間を展開した。

「募金活動」に焦点を当てて、追究活動を行ったグループは、目の不自由な人に対して援助を行うことを考え、中部盲導犬協会へ募金することを考えたり、テロ活動への報復としてアフガニスタンへの攻撃があり孤児が多く生まれている現状があったので、ユニセフを通じて援助しようと募金することを考えたりした。そのため、2月に募金活動を行うために、募金を呼びかけるポスターを作ったり、校内放送を利用してCMを作ったりして、募金をお願いする啓蒙活動を行った。

2月の第1週に、1週間ほど募金活動を行った。登校時に生徒 玄関に立ち、ポスターを掲げながら募金活動を行った。集まったお金は、中部盲導犬協会やユニセフに送金した。また、協力をした全校生徒には、募金額を報告するとともにお礼をかけたポスターを掲示した。

「訪問活動」に焦点を当てて、追究活動を行ったグループは、訪問活動を行う所を考え、再度、福祉訪問活動で行った所を訪問したり、保育園や幼稚園を訪問したり、院内学級を訪問したりとバラエティーに富んでいた。

訪問するところには、生徒自らの手で、訪問日時を連絡し許可を得ることを行った。授業時間内で訪問できない所には、授業後の4時以降に訪問活動を行った時もあった。

さらに、院内学級の慰問は、稲沢市民病院と一宮市民病院を計画した。しかし、特に一宮市民病院は学校から遠いということもあり、3学期の修了式の午後に訪問をした。この時には、千羽鶴とを励ましの手紙を渡してきた。

「地域の清掃活動」に焦点を当てて、追究活動を行った

【募金活動をする生徒】



【募金活動ポスター】



【千羽鶴をおる生徒】

グループは、学校の周りの道路や公園の清掃活動を行ったり、近くの小学校に出かけ「何かお手伝いをする事は、ありませんか」と電話をし小学校の依頼で側溝の土あげをしたりした時もあった。生徒たちは、日頃、登校している通学路に空き缶やゴミが多くあることが分かる

とともに、その後のゴミの分別の大変さに驚きを見せていた。

「その他」の追究のグループは、自分たちがやりたいと思うボランティア活動が見つからず集まったのであ

るが、何をしようかと考えているうちに終わっていつ

てしまい、この「総合的な学習の時間」では、具体的なボランティア活動を実施することなく終わってしまった。

図書館で「どんなボランティア活動があるか」調べ、目の不自由な人に、朗読したテープを送ろう考えた。公立の図書館に電話をし、どんな手続きでおくればよいかと連絡をとった。しかし、目の不自由な人のための朗読テープは、2～3年ぐらい専門の練習をしてからでないと使えないと言われ挫折をした。さらに、校区内の公園に、ゴミや空き缶が多く、注意を呼びかけるポスターをつくろうと考え、公園の掲示板を探しに出かけると掲示板がなくポスターを掲示できないことが分かり、計画を中止したりした。実際には、活動をしていないが、このグループなりに考え行動しようとした。

この総合的な学習の時間の活動は、生徒が自ら考え行動しやり遂げたという充実感が得られた活動であった。試行錯誤を繰り返し、実際には活動ができなかったグループもあるが、悩んでチャレンジすることも大きな学習の成果でもある。



【通学路でゴミ拾いをする生徒】



【ゴミを分別する生徒】

3 平成14年度 修学旅行と総合的な学習の時間

生徒が、自ら考え、ともに学ぶことを身につけるために、修学旅行も「総合的な学習の時間」の学習計画に組み入れて考えた。

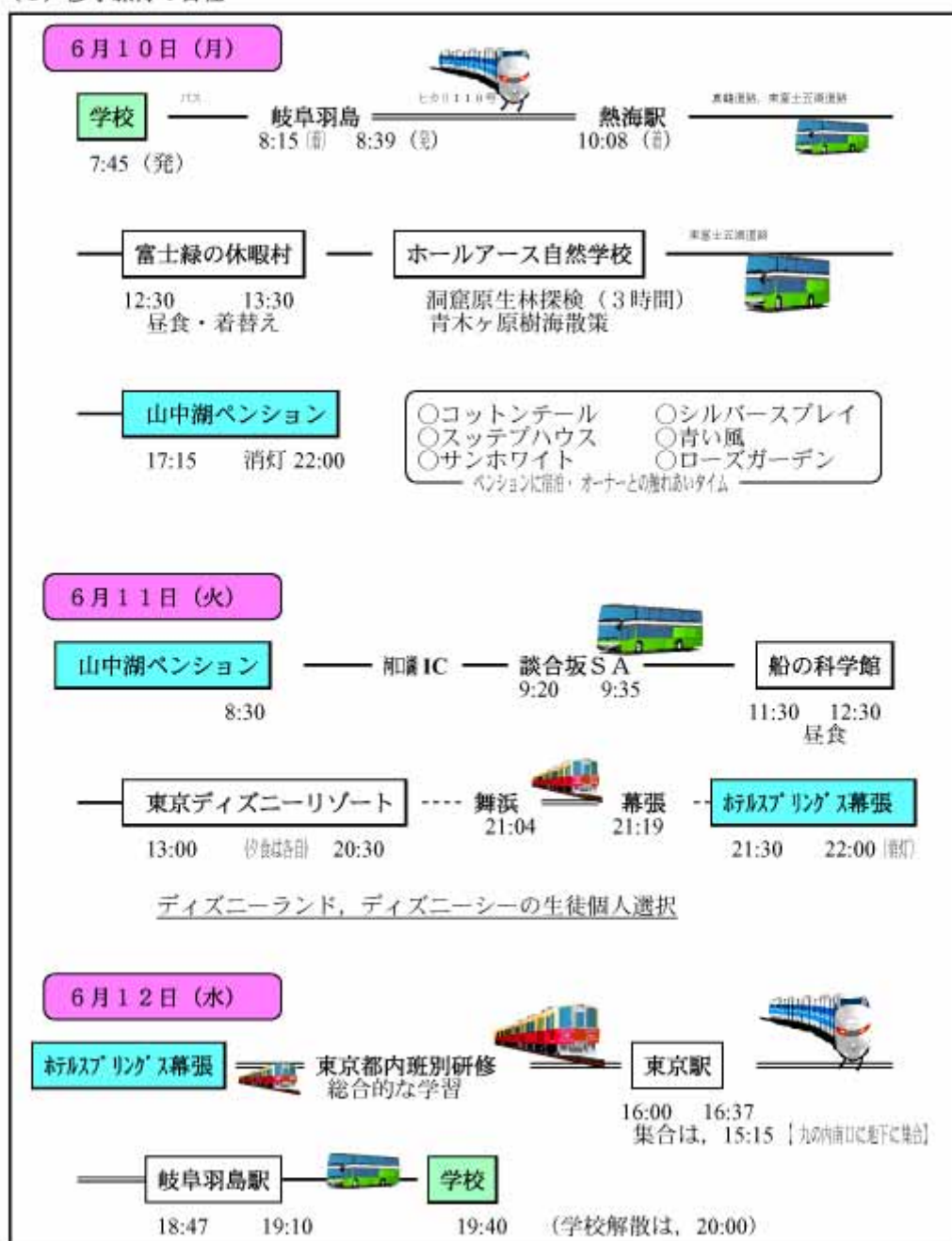
本年度の3年生の「総合的な学習の時間」の目標を『わたしたちの生きる時代を考えようーともに生きるー』と設定し、取り組むことにした。

本年度の「総合的な学習の時間」の計画は、下記のようなものである。

単元計画【わたしたちの生きる時代を考えよう】		学習活動	支援の仕方
3 年 生	4/15	オリエンテーション (1) ・3年生の総合的な学習の姿の方	
	4/18	グループの追究計画案作成 (2) ・学年3月の課題を設定し、7月までの追究計画を作成する。	☞ 「何を、いつ、どこで、だれと、どのように」を明確にした立案するようにアドバイスをする。
	4/25	東京訪問先計画案作成 (2) ・東京での訪問計画を相談する。	☞ 課題にあった計画かどうかを把握し、時間的、内容的に無理がないかのアドバイスをする。
	5/2	訪問先タイムスケジュール作成 (2) ・6月12日の外出時間を作成する。 ・東京訪問先での時間割を作成する。	☞ 時間的に余裕があるかどうかを確認する。乗換、運賃、移動の距離があるか確認する。
2 年 生	5/9, 11, 13	各グループの課題追究 (6) ・追究計画に従って、必要な情報を収集したり、作業を行ったりする。	☞ 単なる調べ学習にならないように調査活動の時間を十分に行わせ、自らの考えがもてるような活動にできるように 留意かけをする。
	6/6	各グループ課題追究 (2) ・収集した資料を整理やデータを整理する。	☞ 生徒同士での学習活動が実り大きなものになりように、話し合いの場を確保し、時間を余裕持ってとるようにする。
	6/10	修学旅行 班別行動 (6) ・集めた情報から有効なものを選択する	☞ 外部機関との打ち合わせをしっかりとこころうように、マナーなどの確認をする。
	6/20	各グループ課題追究 (2) ・予想と現実との比較 ・追究した内容を整理し、発表する	☞ 追究する視点やポイントの変更をすることによって、見方も変わっていろいろな追究ができることをアドバイスする。
1 年 生	7/4, 11	各グループ課題追究 (4) ・新たな疑問に対する自調査・自研究をする	
	9/5, 12	各グループでまとめよう (4) ・前にあった方法で結果をまとめる。	☞ さまざまなまとめ方について助言する。 (レポート、B帳、寸劇、OHP、プレゼンテーション)
	9/19	発表の練習をしよう (2) ・発表原稿の作成 ・発表形式、練習をする	☞ 発表の持ち方や場所を意図した発表になっているか確認し、スムーズにながれるようにアドバイスをする。
幼 児 園	9/23	発表会をしよう (1) ・他の組の発表を観き、質問を記録したり、協議に参加する。	☞ 他の組の発表のよさを見つけるようにアドバイスする。
	9/30	発表会の反省をしよう (1)	☞ 発表を振り返り、自分の生活を考えるようにさせる。
幼 児 園	10/3	残された課題を見つけよう (2)	☞ 後期からの総合的な学習にいかせるように留意づけをする。

わたしたちの生きる時代を考えるうえで、東京でしか取材できないことを班別行動で探究しようと修学旅行をこの「総合的な学習の時間」に組み込んだのである。

(1) 修学旅行の日程



この修学旅行は、明治中学校の今までの修学旅行に比べると、生徒の自主性にまかせるところが多く、行く先にも大きな変更があった。

その例として、1日目は、ホールワース自然学校の青木ヶ原樹海探検・洞窟探検である。この計画も昨年度とは違うものであるが、さらに、探検用の服装を自由とした。宿泊をペンション分宿にしたことも大きな変更点である。

2日目は、生徒が最も楽しみにし、大いに活動的になる東京ディズニーリゾートで、ディズニーランドとディズニーシーの個人選択をおこない、行きたい方に行かせた。

3日目は、最終日に東京の班別学習を実施した点が大きな冒険である。ホテルを出発して、午後3時15分に東京駅集合という、集合時間に多数の班が集まらなかったら対応に困るという日程である。

(2) 青木ヶ原樹海散策と洞窟探検

1年生は、春の校外学習で「リトルワールド」を訪れ、世界と比較することで明治地区の自然環境を考える学習を行った。2年生でも、春の校外学習で「知多半島の潮干狩り」を行った。平野である明治地区の生徒が、海辺での知多半島の自然環境を体験することは地域を知るうえで大きな学習であった。そして、3年生で山がちな西瀬・山中瀬近くの人々の生活を体験することは大きな成果があるように思う。

自然豊かな青木ヶ原樹海を探索し、木々に生命力の高さを実感することは、これから自分たちがどんなことを生きていくうえでどんなことを探究していくかさぐるために重要であると考えた。さらに、富士山の噴火によってできた洞窟を探検することは、自然の驚異を理解するうえで重要である。

青木ヶ原樹海は、溶岩地形のうえにわずかな腐葉土が堆積しているところに植物が生育している場所である。このような場所を歩くと、いろいろな虫を見たり、鳥の鳴き声が聞こえたりして自然の豊かさを実感できる場となった。

そして、中のせまい洞窟を歩き、耳をすますと上から水が落ちてくるちいさな音が聞こえるのもすごく神秘的であった。生徒の声は、「行く前は行きたくないな。疲れるだけでおもしろくない」という内容が圧倒的であった。しかし、ホールワース自然学校のガイドの説明が上手で、生徒を神秘の世界へ上手に導いていった。実際に、体験した生徒の声は、圧倒的に「おもしろかった。もう一度、散策と探検をしたい」というものであった。



【樹海散策】



【洞窟の滴にふれる】



【洞窟の中】

(3) ペンション分宿

生徒を同じホテル・旅館などの一箇所で宿泊して、同じ体験をさせることを本校では行ってきた。本年度は、少人数で宿泊し、オーナーとの触れあう通して、生き方を考えてもらおうとこの計画を考えた。

生徒たちを修学旅行の日程の中にある6つのペンションに分宿させることにした。この時、社会的

マナーを知り、責任を持って実行させる目的で生徒だけの分宿を考えたが、時期尚早ということで、職員もこのペンションに同宿した。夕食のあと、午後8時30分～午後9時30分ま

での1時間をオーナーとの懇談時間とした。この時間で、本校から送っておいた宿泊生徒の自己紹介カードを参考に会話を楽しんだり、レクレーションしたりした後、オーナーが「どうしてペンション経営をされているか」という話を聞くという計画をした。

ペンションのオーナーは、転職してペンションを経営されている方が多いので、これから、生徒が就職を考えたり、生きていく上の参考になればと思い無理を言ってお話をお願いした。レクレーションでの温かいおもしろいという印象から変わり、夢を追い、転職しペンション経営をされたことを語るオーナーの話には説得力があり、生徒の心をひきつけたようであった。

このようなペンション宿泊は、生徒にも教師にも好評であった。生徒は、ペンション宿泊の経験は少なく、アットホーム的な雰囲気を経験できたことに感激をしていたようであった。教師は、ホテル宿泊よりも有意義な経験ができ、朝夜とも温かい手作りの料理が出てくるのがよかったという声が多かった。



【ペンション前での記念写真】



【あいさつをする生徒】



【レクレーション】



【オーナーの話】



【朝の食事風景】

(3) 東京都内班別学習

この東京班別学習は、「総合的な学習の時間」に組み入れて計画を練った。本校の「総合的な学習の時間」は2年生の発展型学習を考え、「環境・福祉」において、生徒が追究したい分野を選んで9月まで追究することにした。

わたしたちの生きている時代を考え、明治地区の自然とともに生きる、高齢者とともに生きる、社会的にハンディをおった人とともに生きることを追究するテーマとして展開している。修学旅行の場を利用して、東京でしかできない所に取材したり、見学したりして、「総合的な学習の時間」に追究しているテーマに迫ろうとこの班別学習を行った。

明治地区と東京の比較をしてテーマに迫ったり、東京でしかない施設（ユニセフ、大使館など）を訪問したりして、新しい情報を得て追究しようとした。修学旅行の関係もあり、3年生で、「環境・福祉」のどの分野を「総合的な学習の時間」の追究するかは決定しておいた。さらに、訪問先は、はやく決めたいと考え、2年生の3月末に決定しておいた。訪問先の決定にあたっては、旅行者に2年生の夏休みぐらいから見学可能なところなどをリストアップするようにお願いし、12月には福祉・環境関係に関するものにしぼってリストアップしてもらった。それだけでは不足するので、インターネットを活用して、生徒は訪問先をさがした。訪問先が重なることも考えられるので、一度、訪問予定地を提出させた。重なっている訪問先があるときには、連絡する担当を決めた。その後、訪問先には、生徒が直接電話をし訪問の依頼をお願いした。生徒は、すぐに訪問先の事業所の許可を得られると思って期待に胸ふくらませ電話をするが、2カ所ほど断られるとどうしてもくじけてしまう傾向がみられた。その場合には、教師が励ますと同時に訪問先をさがす支援をし、訪問先を決めていった。そのため、3年生の修学旅行の準備としては、訪問先のルート計画と質問計画については「総合的な学習の時間」を活用して決め、ホテル・ペンションの宿泊場所・部屋決めや新幹線・バス席決めなどの準備は学級活動の時間を利用して行った。

東京班別訪問先一覧(環境, 福祉関係)

環 境	福 祉
○トヨタサロンムラックス	○J R 東日本
○日本科学未来館	○高齢者障害者にやさしいモデルルーム
○環境財団法人	○日本ユニセフ協会
○国会	○国際協力プラザ
○環境省環境対策調査室	○厚生労働省老健局
○東芝環境保全推進部	○東京都心身障害者福祉センター
○グリーンジャパセンター	○NGO活動推進センター
○東京都水の科学館	
○関東森林管理局東京分局	
○ドイツ大使館	
○東京都環境保全水質監視課	
○板橋区エコポリスセンター	
○地球環境パートナーシッププラザ	
○東京都環境学習センター	
○新宿リサイクル活動センター	

下に示した物が、生徒が決めた訪問先ルートをもとめたものである。

生徒は、最終日に不安を抱きながらも、宿泊先のホテルスプリングス幕張を出発した。心配した通り訪問先を探せず、約束の訪問時間に遅れるグループが3つ出てきた。2年生で訪問活動を経験しているのだから、遅れるグループは訪問先に電話連絡し、それから担当教師の方へ電話をしてきた。教師の方からその訪問先に電話をすると「生徒さんの方から電話が入っていますので、待っています。」と返事をもらった。

訪問先では、事前に、質問事項を2週間前に郵送してあったので、答えもおおよそ準備されており、質問にあう資料も渡してもらうなど順調に取材活動・見学活動を終え、午後の行動に移っていった。内容の深い質問をしたグループは、予定時間をすぎてしまったようであるが、午後の日程を繰り上げて時間を上手に調整していた。

集合時間の午後3時15分に少し遅れるグループはあったが、必死に間に合わそうと走ってくる姿が見られ、3時30分に全員東京駅に集合することができた。



【厚生労働省で説明を聞く生徒】



【高齢者障害者にやさしいモデルルーム】

(4) 東京都内班別学習の報告レポート

班別学習の取材・見学した内容を学校に帰ってからレポートにまとめた。

生徒たちは、訪問活動中に写真を撮りその現像と期末テストの終了を待って、レポート作成活動に入った。

個人レポートの形式にしたので、目的意識の低い生徒は作成するのに苦労していたが、グループのメンバーに取材・見学内容を確認しながら作成活動を行った。

このレポートも生徒個人が持っている「総合的な学習の時間」のファイルに綴じ込み、学習の成

果として蓄積している。

(5) 総合的な学習の時間

この学習は、「環境と福祉」というテーマで、3年生の9月まで行っている。2年生で学習したことを土台としながら、東京の班別学習で学んだことを生かし、地元での学習を基本として、展開している。

① 毎時間の生徒の活動

生徒は、総合的な学習の時間のために、ファイルを持って活動し、コピーしたものや訪問活動で収集した資料をファイルするとともに、毎時間の学習記録をファイリングしている。特に、毎回の活動では、その日の学習活動の見通しをもたせるために、「学習記録表」を活動時間の最初に配布し、学習活動を記録したり、自己評価をさせている。その時間が終了する10分前になると、各グループの本時の活動の報告と次時の活動予定を話し合うことにしている。その後、残りの時間で、本時の学習自己評価をし、反省や感想を記入し、次時の学習に生かすようにしている。教師は、提出された学習記録表に目を通し、感想・励ましの言葉・アドバイスを記入し、返却している。

2時間連続でこの時間を行っているので、学校外へ見学や取材学習を行うことが可能である。そのため、生徒は訪問したい場所に連絡をとって、出かけている。校外に出る場合には、1週間前に学習計画をたてるので、それまでに、グループで行うようにしている。

だんだんと、生徒が、自主的に責任を持って活動をしている現状である。

教師は、生徒の活動を把握したり、

困っていることを確認するために月に1回は、グループにと支援をおこなう相談会を短い時間ではあるが行っている。

② 学習の発表会

総合的な学習の時間のまとめとして、9月の末の学校祭の中での発表を行った。

発表は、体育館の舞台での全体発表を2～3のグループで行い、残りの30グループは各教室での発表を行った。

生徒は4つの発表を聞き、発表を聞く時には、目的意識を持たせるために、各グループの発表視聴後、他のグループの良い点と自己評価を行った。また、これからの自分の発表に生かすように、聞いたグループの中で、どのグループが一番すばらしいか記入して提出させた。

その提出された「あなたが選ぶ総合発表 No 1」のプリントは、書かれているグループに渡し、自分たちのグループの発表のよさを自覚する機会にした。このように、生徒が活躍する場面を他者評価することによって、自己評価力の向上を図りたいと考えている。

③ 総合的な学習の時間のまとめ

前半の「一ともに生きる一」を終えるにあたって、生徒にはこの学習の感想をA4の用紙に書かせた。感想文で学習全体をふりかえることは、自分の学習の反省をするとともに自分の変容をとらえさせることがねらいである。

④ 総合的な学習の時間における教師間の生徒活動状況の連絡

学級の生徒を自分の課題ごとにグループ分けをしているので、学級担任が学級の生徒の活動状況を把握することは不可能である。そこで、各グループを担当教師が、学習段階が終わるごとに、その生徒に対する支援した事項や授業での活動の様子などを表計算ソフトに入力して情報交換を行った。そして、学期に終わりには学級担当に学級生徒分を印刷して配布した。

4 おわりに

本年度から、本格実施された「総合的な学習の時間」の中に、修学旅行の東京班別学習を取り入れた。実際に、「福祉・環境」に関するテーマにそって追究活動を行った。

さらに、この東京班別学習を行うにあたって、1年生から同じテーマで追究する機会を与え、班別行動が生徒の自主的な活動で行われるように、いろいろな機会を活用して失敗を繰り返しそれを糧に学習を積み上げてきた。

その集大成がこの「修学旅行」の班別活動と「総合的な学習の時間」の発表の場である。その活動を通じて、生徒には次のような成果があった。

- 問題意識を持ち、見通しを持って追究することができるようになった。
「総合的な学習の時間」での学習課題を設定、追究する活動を通して、図書館やインターネットを活用した調べ学習、見学学習など追究の仕方に工夫がもて、計画的に学習が行えるようになった。
- 仲間と協力し、ともにいたわり、問題解決を図ることができるようになった。
校外学習・修学旅行などの見学・取材学習で、トラブルが発生した時どんな行動をしたらよいか判断することができ、周りに迷惑をかけないように対処する能力がついてきた。
- 自ら積極的に課題を解決しようとするようになった。
興味・関心のある課題を選択し、追究活動を行うことによって、生徒は訪問先に電話かけたり、FAXを送ったり、見学学習に出かけたりと行動的に追究する活動がみられるようになった。

これから、3年生後半の「総合的な学習の時間」では、「これからの生き方を考えよう」テーマに追究活動を実践しているので、生徒は自ら課題を見つけ、自分の生きていく時代を見つめていってくれると思う。

まだまだ、不十分な実践ではあるが、今回の発表を機会にご意見をいただきながら、さらによいものをめざしていきたいと思っている。